

# 愛器を語る

岩永善信

◆  
ホセ・ルイス・  
ロマニョス 10 弦 (1980)

Yoshinobu Iwanaga

パリ・エコール・ノルマル音楽院演奏家クラスを首席卒業。第1回日本ギターコンクール第1位入賞、第3回イタリア・ガルニアーゴ国際ギターコンクール第1位入賞、第20回パリ国際ギターコンクール第2位入賞など数々の賞を受賞。その後、ベルギーを拠点にヨーロッパで演奏活動の展開、高い評価を得る。1998年、演奏活動の拠点を日本に置く。高度なテクニックと研ぎ澄まされた感性、楽器の枠を超えたダイナミックで豊かな演奏は、聴衆に大きなインパクトを与え、各地で熱狂的なファンを獲得し続けている。2000年以降、活動の場を再び海外にも広げ、世界各地で意欲的に演奏活動を行っている。2003年、シンガポール日本文化交流の実績により感謝状を贈られ、2004年より台中市吉他協会の特別顧問として台湾ギター協会の発展に寄与する。2012年、日本アジアギター教育協会の会長に就任し、アジアにおけるギター教育の発展に努める。2015年6月にはアメリカコンサート、2016年6月には中国でのコンサートを予定している。

写真：木田新一

——何歳からギターを始められましたか？

岩永 小学校4年生の時です。

——最初に弾いたギターを覚えていますか？

岩永 実はあまり覚えていないんです(笑)。確かよくある量産型のギターだったと思います。

——初めて手工ギターを手にしたのはいつ頃ですか？

岩永 河野ギターを中学生の時に弾いたのが最初です。卒業後にラミレス、そしてハウザー2世、フレタ、ブーシェ……そこから10弦ギターを使うようになりました。

——岩永さんが10弦を弾くようになったきっかけを教えてください。

岩永 名古屋のギタリストの酒井(康雄)さんにお会いした時に彼の10弦ギターを触らせていただいたんですが、その響きがとても素晴らしくて、ぜひ自分でも弾いてみたいと思い、まずベルナベの10弦を買ったんです。コンサートなどで本格的に10弦を弾き出したのは1978年だったと思います。このロマニリョスが80年製ですから、2年近くベルナベを弾いていたことになりそうです。

——ロマニリョス10弦は世界でこの1本しかないそうですね。ロマニリョスにオーダーしたきっかけを教えてください。

岩永 実はロマニリョスからは、この楽器をオーダーする6ヵ月ほど前に6弦ギターを受け取っていたんですが、それがとても素晴らしかったので、「10弦も作ってくれないか？」と頼んだら「作る」と言ってくれたんです。当時、ロマニリョスの楽器は10年待ちだったんですが、実際は半年で作ってくれました。

——現在、お持ちの10弦はこのロマニリョスのみですか？

岩永 2000年に買ったトビアス・ブラウンも時々弾いています。

——ロマニリョスのボディはトーレスモデルだと伺っていますが、6弦からの持ち替えはスムーズでしたか？

岩永 最初は違和感がありました。でも10本の弦のうち、上の4本を使わなければ6弦のギターを弾くのと同じですので、10弦を駆使した複雑な編曲でなければ2、3カ月で慣れるのではないのでしょうか？

——現在の使用弦について教えてください。

岩永 8弦から10弦はハナバッハのハイテンションで、他はオーガスチンの青。7弦は6弦と同じものを張っています。

——調弦はどのようにしていますか？

岩永 リュート式のバロック調弦なので、6弦がミで10弦に向かってレ、ド、シ、ラ。あとは曲に応じて変えていきます。コンサートの場合、弾く曲も多いので、かな

り変える必要があります。

——ブラウンとロマニリョスはどのような時に持ち替えていますか？

岩永 ブラウンを使うのはロマニリョスの調子が悪い時です。そうでなければ基本的にロマニリョスを弾きます。

——ロマニリョスは結構、調子に波のある楽器なのではないですか？

岩永 そうですね。神経質な楽器だと思います(笑)。

——拝見したところ、かなり弾き込んでいらっしゃるようですが、これまでに大きな修理をされたことはありますか？

岩永 表面版を塗り替えたことがあります。ロマニリョスは元々塗装が薄いので、一時表面がカラカラになってしまっていて……「もう寿命かな？」とも思いましたが、ある人に塗り替えをアドバイスされて、ロマニリョスの息子さんに頼みました。

——ヘッド部分が重いので、バランスを取るための重りを底の部分に付けていらっしゃるそうですね。

岩永 はい。でも、構え方や持ち方を工夫することで、重りの重さをだいぶ減らすことができました。楽器の振動に対して、あまり重いものを付けるのは良くないので、できるだけ軽くしたいんですが、軽すぎると不安定になって弾きにくくなります。ロマニリョスは他の楽器に比べるとボディ部分が特に軽いんです。

——先ほど楽器を計測させていただきましたが、ネック部分は重いですが、総重量は他の楽器とそれほど変わりませんでした。

岩永 ロマニリョスは、ボディ部分を軽くすることにこだわりを持っていて、この楽器が完成した後に送ってくれた手紙には「すごく苦労した」ということが書いてありました。

——これからもこのロマニリョスとブラウンの2台を使い分けていく予定ですか？

岩永 実はブラウンは2台持っているんです。先ほどお話した2000年製の他に、最近完成したばかりでまだ人前では弾いていませんが、できるだけこのロマニリョス10弦に近い型になるようにトーレスモデルで作ってもらったもので、もう少し弾き込んだら、コンサートで弾くこともあるかもしれません。

——今年の活動を教えてください。

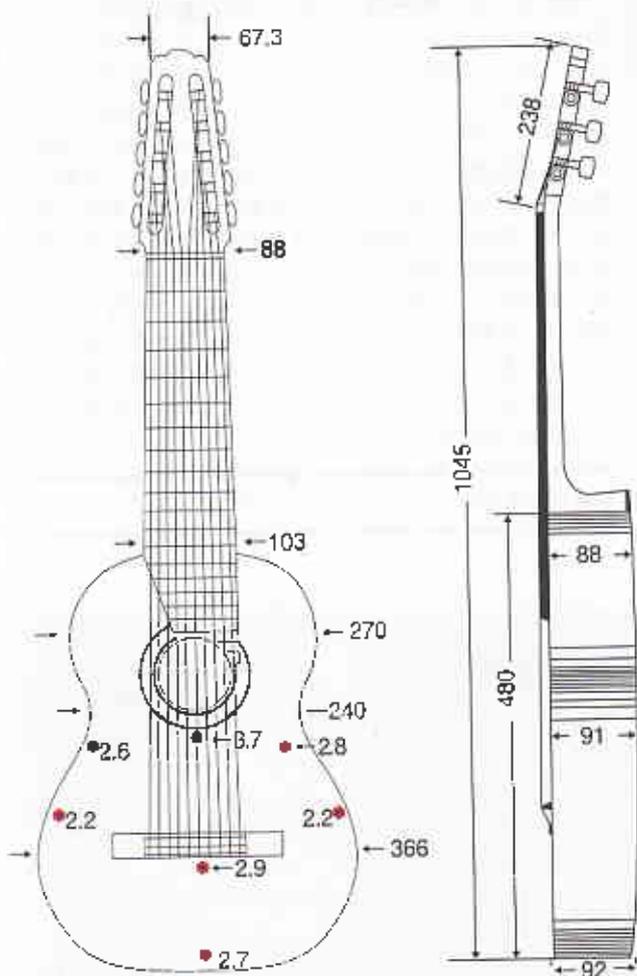
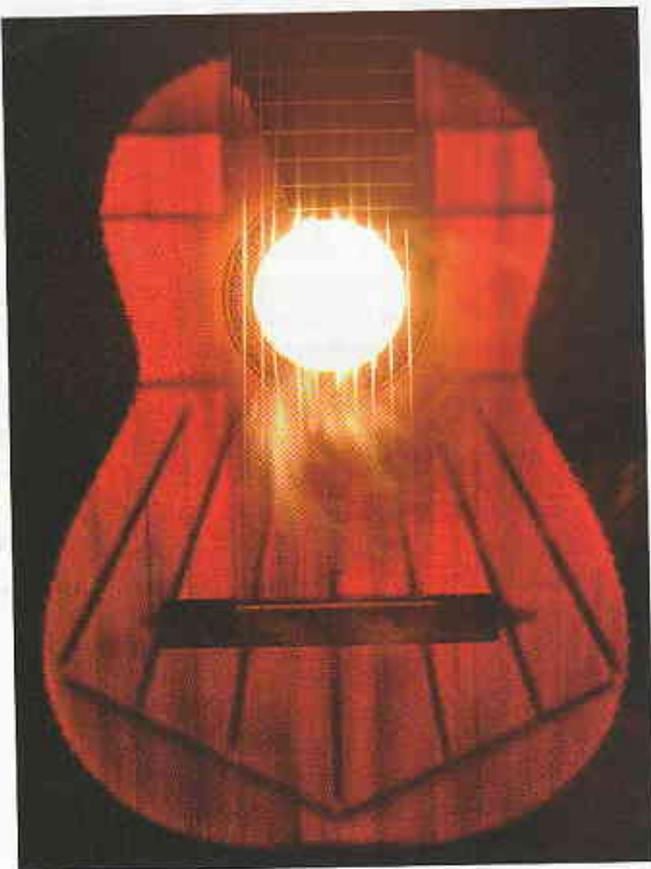
岩永 国内は例年通り東京・名古屋でのコンサート等、仙台から鹿児島までという感じですかね。それと中国でもコンサートをします。

——これからもますますのご活躍を楽しみにしています。今日はありがとうございました。





●ロマニヨスは1932年、スペイン・マドリッド生まれ。イギリスに移住し、独学でギター製作の技術を学んだ。現在はギター製作の歴史研究に打ち込み、スペインの自宅には古楽器の博物館も所有するほどだが、インタビュー中にもあるように10弦を製作したのは岩永へのこの1台のみ。ロマニヨスは製作した楽器に愛称を付けるが、この楽器のラベルにはスペイン語で「10」を表わす「LA DECENA」と書かれている。



表面板に付された赤点横の数字は、Marconi Lan社のDigital thickness gageという測定器を用いて計った表面板各部位の厚さ。

## DATA

### サイズ

重量	1800g
総長	650mm
弦幅(上)	77.2mm
弦幅(下)	88.0mm
サウンドホール径	φ 87mm
駒	28 × 200 × 8.7mm
ネック厚(上)	23.5mm
ネック厚(下) ※10F	30.0mm

### 材質

表板	スプルース
裏・横板	ローズウッド
ネック	マホガニー
指板	黒檀
駒	ローズウッド
塗装	セラック
糸巻	ロジャース